

【2025 年度入学生 薬科学部 医療ビジネス薬科学科】

教育方針

卒業認定・学位授与の方針（DP：カリキュラムポリシー）

医療ビジネス薬科学科では、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」に則り、ヘルスケアの専門家として、幅広い知識と実践力のある人材を育成するために、卒業時に以下の資質・能力を身につけた者に対し、学位を授与します。

1. ヘルスケア関連分野に貢献できる基本的資質（知識・技能）
 - (1) ヘルスケア関連分野で必要とされる医療、健康、生活及びビジネスに関連する幅広い専門知識を有し、個々の生活者の ウェルビーイングの実現に寄与する能力を身につけている
 - (2) 地域社会から国際社会にわたる広い視野に立つことができ、他者との適切なコミュニケーションを図りながら、ヘルスケア関連産業や医療機関に積極的に参画できる能力を身につけている
2. ヘルスケア関連分野に貢献できる実践能力（態度）
 - (1) 薬学の知識を持ったヘルスケアの専門家として、前向きな意欲と態度をもって自己研鑽に励み、思考力・判断力・表現力 を身につけ、責任をもって行動することができる
 - (2) 各コースの特徴・内容・専門性を理解し、実践できる能力を身につけている
3. ヘルスケア関連分野における問題発見・解決力
 - (1) ヘルスケアを取り巻く社会情勢を認識し、主体性をもって自ら考え、問題を発見し、それを解決する能力を身につけている
4. 疾病のみならず未病段階にまで視野を広げた統合医療を実践能力
 - (1) 西洋医学のみならず漢方・伝統医学などを融合した統合医療を理解し、その成果を医療や地域社会に還元できる能力を身につけている

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

学園の建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、本学部本学科の教育目標を達成するために 4 年間の教育課程を編成し、学修成果としての「知識・技能」、「態度」、「問題発見・解決力」および「実践能力」を以下の課程編成・学修方法によって養い、多様な方法を用いて評価します。

CP1：知識・技能

- (1) ヘルスケア関連分野で求められる医療、健康、生活、ビジネスに関する幅広い専門知識を修得し、個々の生活者のウェルビーイングの実現に貢献できる能力を養うため、

学科基礎および学科専門科目に加え、各コースに対応したコース専門科目を1～4年次に配置します。また、グループワークやプロジェクトベース学習（PBL）などの能動的な学習方法を積極的に活用し、実践的な知識と技能を身につけられるよう支援します。

(2) 地域から国際社会にわたる広い視野を持ち、他者との適切なコミュニケーションを図りつつ、ヘルスケア関連産業や医療機関に積極的に参画できる能力を養うため、ビジネス系科目、アドバンスト科目、実践アドバンスト科目をカリキュラムに組み込みます。また、幅広い教養教育を提供するため、「人文系科目」「社会系科目」「語学系科目」「データサイエンス系科目」を「学部共通選択科目」として1年次から配置し、学生の成長と新たな学びのニーズに応じて4年次まで履修可能とします。

CP2：態度

(1) 薬学の知識を持つヘルスケアの専門家として、前向きな意欲と態度をもって自己研鑽に励み、思考力・判断力・表現力を身につけ、責任を持って行動できる人材を育成するため、1年次には学部の垣根を越えた「学部共通必修科目」を設け、異なる考え方を持つ学生間の交流を促進すると同時に異なる学部の学生が共に学ぶ機会を通じて、協働的な態度とコミュニケーション能力を養うことができるよう科目を配置します。

(2) 2年次以降は選択した各コースの進行に応じて、他コースの科目も履修できるようにします。「選択必修科目」には各コースのコア科目を配置し、「選択科目」には関連分野の科目を配置することで、学生が自身の興味・関心に応じて専門性を広くかつ深く学び、主体的な態度で取り組むことができるよう科目を配置します。

CP3：問題発見・解決力

ヘルスケアを取り巻く社会情勢を理解し、主体性をもって問題を発見・解決できる能力を育成するため、産業界の実情を学ぶ「現代社会とヘルスケアビジネスの現状」などの「アドバンスト科目」を配置します。また、すべての学生に卒業論文の作成を課し、学士課程で学んだ知識と技能を統合して課題に取り組む力を養成できるよう科目を配置します。

CP4：実践能力

西洋医学のみならず漢方・伝統医学を融合した統合医療を理解し、その成果を医療や地域社会に還元できる能力を身につけるため、本学の推進する漢方に基づく統合医療の基礎を俯瞰的に理解できるよう、1年次に「統合医療入門」を配置します。この科目を通じて、ヘルスケア領域の知識を学ぶ意義を理解し、自律した学修意欲と実践力を育みます。また、アドバンスト科目や実践アドバンスト科目を含む行動型学修を導入し、学生が主体的に社会問題に触れる経験を通じて、社会貢献への意欲と実践力を身につけられるよう科目を配置します。

●学修成果の評価と活用方法

学修成果については、講義や演習の各科目ごとに、シラバスに記載された到達目標の達成度を評価方法（試験や課題レポートなど）に基づいて成績として評価します。実習、実技、フィールドワークなどの科目では、各科目の到達目標に基づき、レポートや研究

発表などをルーブリック等で数値化し、その結果を基に成績を評価します。また、各学期終了後には、自己評価（DP ルーブリック）と客観評価（GPA や修得単位数）を基にしたポートフォリオを活用し、学生が自身の学修を振り返り、改善する機会を提供します。アドバイザー教員は、学生の個々の達成度や将来の計画に応じた学修を支援します。

入学者受入の方針（(アドミッション・ポリシー：AP)

学園の建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、医療ビジネス薬科学科の教育目標を達成するために、多様な選抜を実施することにより、以下の資質をもつ者を受入れる。

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得しており、特に国語、数学、理科、英語の基礎的な内容を身につけている。
2. 身の周りの問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え自分なりの結論を導き、説明することができる。
3. 医療ビジネス薬科学科の知識や経験を持って、社会に貢献したいという明確な目的意識と意欲がある。
4. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるためのプログラムに最後まで取り組むことができる。